

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	杉本 直也	学校名	神戸市立北須磨小学校
実施学年	2年生	教科	学活
单元名	「ひなんリュック」をつくろう		

《学びを深めたいポイント》

阪神淡路大震災 30 周年を迎えるにあたり、現在の児童に地震を自分ごととして捉えられるように指導していきたい。そのための指導としては、今年の1月1日にあった令和6年能登半島地震が児童にとって記憶に新しく、導入としては適していると思う。その上で、防災リュックを用意する時にどのような物を持って逃げればよいか知るとともに、自分たちが避難した時に必要な物は何かを話し合うことで、それぞれの使い方を知り、実生活に生かそうとする児童を育みたいと考えた。

《SKYMENU 活用のポイント》

避難リュックに入れる物の中で、水と食料は必要不可欠であり、全ての班でその意見が出ることが考えられるため、その2種類以外でどんな物が欲しいかを考えさせる。その時に、避難リュックに入れるもののイラストを全て動かせるように配置し、その中から自分が必要だと思う物を動かして、選んだ理由を書き込むことで、地震や避難するということを自分ごととして捉えることができる。

また、話し合いの中で、選んだものを変更しても、発表ノートだと変更も容易にできるため、発表ノートを使うメリットがあると考えた。

また、手書き入力機能があることで、タイピングができない低学年の児童もGIGA端末を活用して学習することができる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	・阪神淡路大震災、東日本大震災、令和6年能登半島地震等、震災とはどのようなものか確認する ・生活の中で困ったエピソードを紹介する		

展 開	・避難リュックについて知る。 ・生きていくのに絶対必要な物は何かを考えさせ、避難リュックに絶対に入れておきたいものを発表させる。 ○水、非常食、お金・・・ ・発表で出た物全てを避難リュックに入れることはできないので、水と非常食以外に3種類何を入れるかとその理由を班ごとに考えさせる。	・発表ノートを配布し、シートを見せる。 ひなんリュック じしんや、さいがいがおこった時に、すぐに家からもち出せるように、よいしておくリュックです。 ・6ページに載せている18種類の物から3つを選び、7ページにドラッグさせることで、画像をコピーさせ、付箋にグループで話し合った理由を入力させる。 水と食べものの ほかには、何を よいしておけば よいでしょうか。 ・「画面一覧」機能を使って代表者の画面を大きくプロジェクターで大きく写し、班ごとに発表させる。 けがをした時にすぐに手当てができる さむい時に着たり、よごれたら着がえたりできる にげられなかった時に、ふいてたすけてもらう	・発表ノートの「グループワーク」機能を使い、他の班がどのように決めているかを見られるようにしておいて、話し合いが上手く進まない班への手助けとする。 ・低学年でタイピングができない学年であっても、付箋の「手書き入力」で理由を入力できる。 ・前の画面が見にくい児童は、「グループワーク」機能で、発表者の画面を確認することもできる。(発表者の方を見て聞かせたいので、画面を見続けて聞くことがないように指導する)
ま と め	・8・9・10ページを見て、ラップ、ポリ袋、新聞紙の災害時の便利な活用方法を確認させる。 ・家に帰って、家族と話し合い、避難リュックを作るきっかけを作るように伝える。	・8～10ページの内容は事前に見られると話し合い活動で決める物に影響するので、あらかじめ付箋で隠しておき、最後に活用する時に付箋を外す。	・「グループワーク」を解除する時に、参考にした班のシートを選び、持ち帰ることで多様なアイデアを残すことができる。

《実践を振り返って》

・避難リュックを作っていない家庭の児童にとって、家でも作ってみたいという意欲付けになった。 授業参観で実施したため、実際に家庭で避難リュックを作ったと教えてくれた児童もいた。 ・2年生で実施したため、話し合い活動にかなりの時間がかかった。そのため、選んだ物の理由の入力は短い文で端的にまとめて時間を調節する必要があった。 ・多種多様な意見がでてきて、どれも認めたいため、避難リュックは家族全員でほしい物を分けて入れると様々な種類のものをもって逃げるができるね。とまとめた。
--